

## あらためて職業奉仕について考えてみた

ロータリークラブに入会して10年が経ったが、今年、地区の職業奉仕委員会に出向することになった。そこで、「職業奉仕とは何か」、自分なりにもう一度考えてみることにした。

ロータリーの目的の第2に「職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること」とある。

これまで、ロータリーの例会や各種行事で、何度も何度も、見て、読んで、唱和してきた文章だが、その意味するところは、正直、自分では、分かったようで分からない。

入会した時、ある先輩のロータリアンから、「ロータリーの核心は職業奉仕だから。他の団体とはここが違う。職業奉仕というのは、自らの職業を通して地域社会に貢献することだ」と教えていただいた。しかし、ふと考えてみると、一般的に自分の職業に専念している限り、地域社会に貢献していない人なんていないのではないか、今一步ピンとこないな、当時はそう思っていた。

今年度の地区職業奉仕委員会は、職業奉仕に関するそれぞれの体験談なりをもとにした「それぞれの職業奉仕物語」を募集することにした。委員会のアドバイザーの伊藤三之PDGは、ケンタッキーフライドチキンに関するエピソードを題材にした「それぞれの職業奉仕物語」の例文とともに、委員会方針の説明の中で、職業奉仕に関するキーワードとして、「人格形成」、「自己啓発」、「倫理観醸成」、「高潔性維持」、「顧客満足」、「天職」などの言葉を示された。

私は、伊藤アドバイザーの例文を読んで、「お客さんの満足を最優先にすること、そのために高い倫理観や責任感をもって働くこと」こそが、職業奉仕の意味することなのではないかと思った。

それでは、と自分なりの職業奉仕、職業倫理について考えてみた。

ロータリアンであろうとなかろうと、その地域で商売をさせてもらっている経営者や職業人は、自分なりの責任感や倫理基準を持ち、顧客のために一生懸命働いているはずである。日々の仕事の中で、何かミスが生じた場合には、サービスを提供している側が謝罪や弁償をするのが当然であると思う人は多いと思う。ところが、実際には、そこに人間本来の感情や世間体、そろばん勘定、先入観などが入ることで、ついつい素直に謝罪したり弁償をしたりすることを避けたい、そっちにも責任が・・・とってしまうことも多いのではないか。

ところが、ロータリーは、「顧客満足が商売のこつ」、「そのために高い責任感と職業倫理」、ひいては「人格の形成」を、あえて、声を大にして求めている。

今回、「職業奉仕」というものについて、自分なりに改めて考える機会をもらって、まだその内容は明確には把握できていないが、ロータリーに対する興味や魅力が増したのは明確だ。